

令和3年度

教育委員会点検評価報告書
(令和2年度対象)

令和3年9月

大鰐町教育委員会

目 次

I	点検・評価の概要	1
II	点検・評価の対象及び方法	1
III	評価委員	1
IV	評価委員会	1
V	令和2年度 大鰐町の教育	1
	1 大鰐町が目指す町の姿	
	2 大鰐町教育委員会の基本方針	
	3 令和2年度 大鰐町教育方針体系図	
VI	教育委員会の活動状況	3
	1-1 教育委員の構成（令和2年4月1日現在）	
	1-2 教育委員の構成（令和3年3月31日現在）	
	2 教育委員会会議の開催状況	
	3 教育委員の行事等参加状況	
VII	主要施策の点検・評価	7
	1 学校教育の推進	
	2 社会教育の推進	
	3 芸術文化の振興と文化財の保護活用	
	4 生涯スポーツの振興	
VIII	令和2年度 主な事業と経費及び成果等	30
IX	評価委員による点検・評価	37

I 点検・評価の概要

趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律で、教育委員会は、毎年その権限に属する教育行政事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することが規定されております。

この法律の規定により、大鰐町教育委員会では、今後の効果的な教育行政の推進及び町民への説明責任を果たしていくために教育に関する点検及び評価を実施し、報告書にまとめました。

II 点検・評価の対象及び方法

点検・評価の対象は、前年度に管理及び執行した事務のうち大鰐町主要施策に基づく重点の事務事業を教育委員会が自己評価しました。

- A…達成している
- B…ほぼ達成している
- C…やや達成していない
- D…達成していない

III 評価委員

- ・藤田昇治（元弘前大学生涯学習教育研究センター副センター長
兼大学院地域社会研究科准教授）
- ・笹田和夫（元中学校校長）

IV 評価委員会

- ① 令和3年 7月30日（金）
- ② 令和3年 8月20日（金）

※会議でなく、書類のやり取りにて行いました。

V 令和2年度 大鰐町の教育

1 大鰐町が目指す町の姿

湯の郷・雪の郷・りんごの郷 おおわに

- ① 美しく・潤いのあるまちを創る
- ② にぎわいと住みやすさのあるまちを創る
- ③ 活力と夢を育むまちを創る
- ④ 豊かな心と学びのまちを創る
- ⑤ 健やかで笑顔のあるまちを創る
- ⑥ みんなで築くまちを創る

（第5次大鰐町総合振興計画）

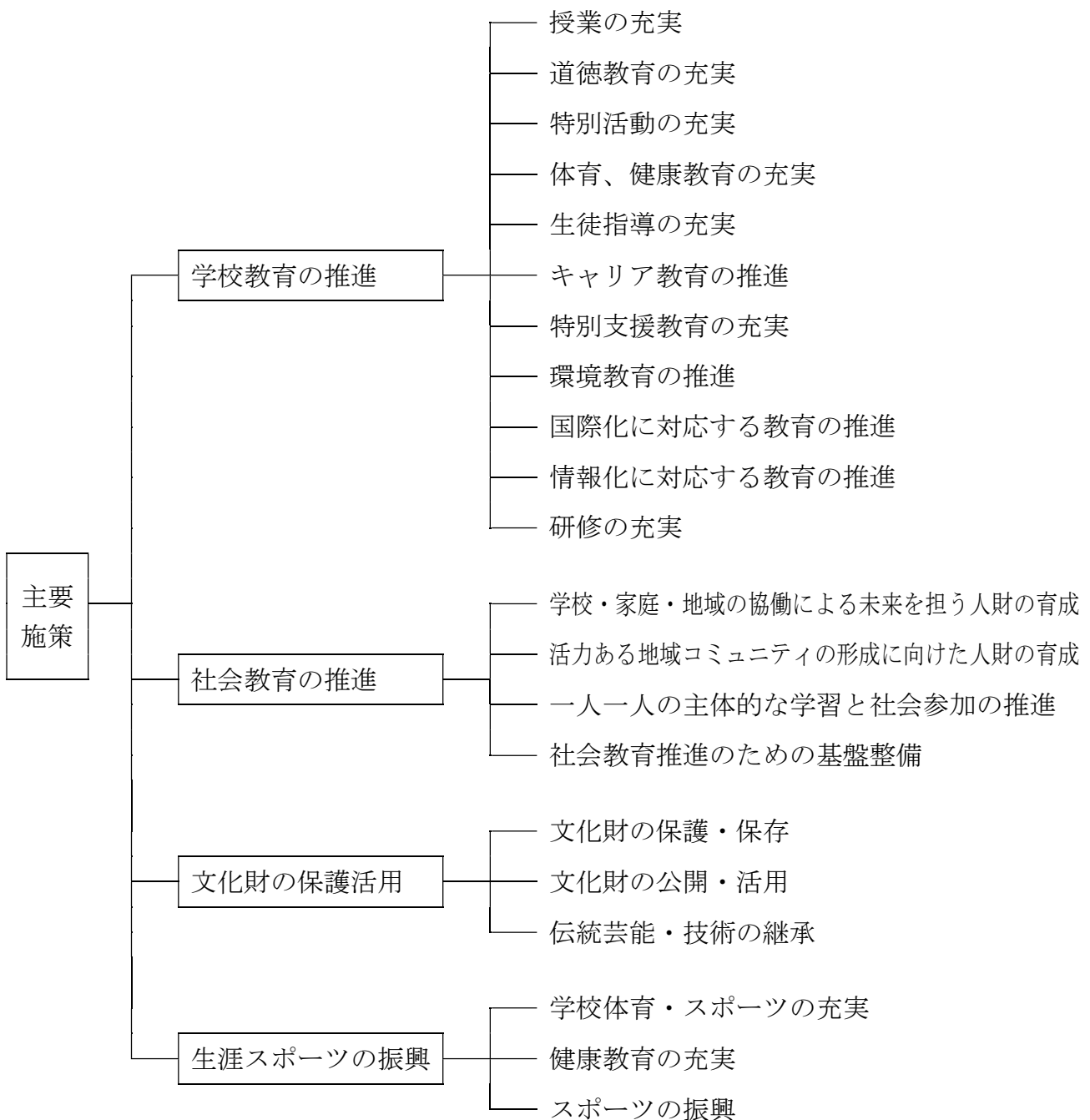
2 大鰐町教育委員会の基本方針

大鰐町教育委員会、その他関係機関・団体との連携を図りながら、町を育てる学力、町に生かせる学力を育てていきます。

大鰐町の未来を創る人財の育成

一人一人が学び、郷土を愛する、心豊かでたくましい人づくり

3 令和2年度大鰐町教育方針体系図



VI 教育委員会の活動状況

1-1 教育委員の構成（令和2年4月1日現在）

役職名	氏名	委員としての任期	委員長及び教育長としての任期	備考
教育長	木田 専一		R01. 10. 29～ R04. 10. 28	H28. 10. 29 新教育委員会制度 による教育長就任
教育長 職務代理者	成田 信一郎	R01. 12. 18～ R05. 12. 17		R02. 1. 9 教育長職務代理者就任
委員	小西 祐	H28. 10. 29～ R02. 10. 28		H20. 10. 29 就任
委員	貴田 範子	H30. 7. 13～ R04. 7. 12		H23. 7. 13 就任
委員	山口 裕子	H29. 12. 25～ R03. 12. 24		H29. 12. 25 就任

1-2 教育委員の構成（令和3年3月31日現在）

役職名	氏名	委員としての任期	委員長及び教育長としての任期	備考
教育長	木田 専一		R01. 10. 29～ R04. 10. 28	H28. 10. 29 新教育委員会制度 による教育長就任
教育長 職務代理者	成田 信一郎	R01. 12. 18～ R05. 12. 17		R02. 1. 9 教育長職務代理者就任
委員	小西 祐	R02. 10. 29～ R06. 10. 28		H20. 10. 29 就任
委員	貴田 範子	H30. 7. 13～ R04. 7. 12		H23. 7. 13 就任
委員	山口 裕子	H29. 12. 25～ R03. 12. 24		H29. 12. 25 就任

2 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、原則として毎月1回「教育委員会定例会議」を開催している。また、必要に応じて臨時会を開催し、令和2年度の定例会は12回、臨時会は3回開催された。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第13条及び「大鰐町教育委員会会議規則」の規定に基づき、令和2年度は以下の案件について審議及び報告事項による確認を行なった。なお、定例会では教育長に関わる業務内容を毎回報告し、教育委員間で認識の共有化に努めている。

開催日	件名
第1回 定例会 4月6日	報告事項1 業務報告 報告事項2 大鰐町教育委員会・事務局職員名簿 議案第1号 英語指導助手就業規則等を廃止する規則案 議案第2号 大鰐町公民館運営規則の一部を改正する規則案 議案第3号 大鰐町文化財の指定について
第2回 定例会 5月11日	報告事項1 業務報告 議案第4号 大鰐町教育委員会事務局の組織に関する規則の一部を改正する規則案 議案第5号 行政財産の目的外使用の使用料の額の決定について
第3回 定例会 6月1日	報告事項1 業務報告 議案第6号 大鰐町社会教育委員の委嘱について 議案第7号 大鰐町中央公民館運営審議会委員の委嘱について 議案第8号 大鰐町スポーツ推進委員の委嘱について 議案第9号 大鰐町文化財審議委員の委嘱について
第1回 臨時会 6月15日	議案第10号 大鰐町奨学金貸与条例施行規則の一部を改正する規則案
第4回 定例会 7月6日	報告事項1 業務報告 報告事項2 大鰐町部活動指導員設置要綱について
第5回 定例会 8月3日	報告事項1 業務報告 議案第11号 令和3年度使用小・中学校用教科用図書採択について
第6回 定例会 9月1日	報告事項1 業務報告 議案第12号 令和2年度 教育委員会点検評価報告書（令和元年度対象）について 議案第13号 教育財産の取得申出の件

開催日	件名
第2回 臨時会 9月18日	報告事項1 大鰐町学校給食費等助成金交付要綱について 議案第14号 大鰐町学校給食センター管理運営規則の一部を改正する規則案
第7回 定例会 10月5日	報告事項1 業務報告
第8回 定例会 11月5日	報告事項1 業務報告
第9回 定例会 12月8日	報告事項1 業務報告 議案第15号 教育財産の取得申出の件
第10回 定例会 1月6日	報告事項1 業務報告
第11回 定例会 2月2日	報告事項1 業務報告 報告事項2 令和2年度 青森県学習状況調査結果 (大鰐小学校第5学年) (大鰐中学校第2学年)
第3回 臨時会 2月12日	議案第16号 県費負担教職員の任免の内申について
第12回 定例会 3月1日	報告事項1 業務報告 議案第17号 令和2年度大鰐町スポーツ賞表彰被表彰者の選考について 議案第18号 令和2年度学校教育活動表彰被表彰者の選考について 議案第19号 令和2年度退職教職員賞表彰被表彰者の選考について

3 教育委員の行事等参加状況

教育委員会は、教育委員会会議のほか、学校行事及び研修会に参加している。

期 日	行事・研修会等	場 所	参加委員
	南地方市町村教育委員会連絡協議会（中止）		
令和2年 4月7日	大鰐町立大鰐小学校及び大鰐中学校入学式	各学校	なし(新型コロナウイルス感染症拡大防止のための制限)
	大鰐町教職員全員研修会（中止）		
	大鰐小学校運動会（中止）		
5月31日	大鰐中学校運動会	大鰐中学校	なし(新型コロナウイルス感染症拡大防止のための制限)
	青森県市町村教育委員会連絡協議会定時総会・研修会（中止）		
6月29日	前期学校訪問 (大鰐小学校・大鰐中学校)	各学校	全委員
	社会を明るくする運動（中止）		
	大鰐町成人式（延期後に中止）		
	南地方市町村教育委員会連絡協議会秋季研修会（中止）		
10月30日	後期学校訪問 (大鰐小学校・大鰐中学校)	各学校	全委員
令和3年 2月18日	大鰐小学校スキー大会	大鰐温泉スキー場	なし(新型コロナウイルス感染症拡大防止のための制限)
2月24日	大鰐町総合教育会議	中央公民館	全委員
3月11日	大鰐中学校卒業式	大鰐中学校	なし(新型コロナウイルス感染症拡大防止のための制限)
3月19日	大鰐小学校卒業式	大鰐小学校	なし(新型コロナウイルス感染症拡大防止のための制限)
	大鰐町教育委員会顕彰式（中止）		

VII 主要施策の点検・評価

1 学校教育の推進

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)授業の充実	一人一人の子どもが、各教科及び総合的な学習の時間等において主体的・対話的で深い学びを通して確かな学力を身に付けることができるよう、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。	<p>【小学校】</p> <p>各教科の特性を考えながら、効果的な言語活動を取り入れて、各学年に応じた教科指導を行った。児童は、学校全体で確認している学習訓練が身に付いていて、落ち着いた態度で授業に臨んでいた。また、既習事項の確認・反復練習、家庭学習の習慣化が身に付いている児童が多く、基礎・基本の定着が図られた。その結果、C R T学力検査の結果は、全国平均を上回る、又は、近い結果となった。しかしながら、国語科での「書くこと」の指導事項や他教科でも自分の考えを表現する内容では、全国平均を下回る項目もあった。</p> <p>今後は、児童が共に学ぶ仲間と協力して最適解・納得解を見出していく授業を構築し、自分の考えを表現できるような授業を展開できるよう、教師自身の授業観、指導方法の見直しをし、さらなる授業改善をしていきたい。</p>	A
		<p>【中学校】</p> <p>『確かな学力』を身に付け、学び続ける生徒の育成のために、①N R T等の学力検査に加え、アセスや生徒意識調査等の情意面のアンケート</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>調査の実施・分析、②学習指導要領の完全実施に向けた「授業づくりのポイント」の明確化と共通理解、③諸検査や調査を踏まえた取組内容の明確化と共通行動の徹底、の3点について取り組んだ。</p> <p>その結果、コロナ渦の臨時休業措置等の影響で、昨年度と比べ全体的なNRTの学力偏差値は低下したものの2・3年生の2つの学年では標準を示す50を上回り、学力低下を抑えることができた。また、生徒意識調査では、授業に対する主体性や理解度に関する項目が昨年度よりも向上した。</p>	
(2) 道徳教育の充実	<p>一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持つことができるよう、全教育活動を通じて道徳性の育成に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>週一時間の特別の教科「道徳」の時間においては、物事を多面的・多角的に捉えられるように、教科横断的な学習活動（年間指導計画 別葉を活用）も含め、問題解決的な学習を行っていた。しかしながら児童の発達の段階は、年齢だけでなく個人差もあるので、一人一人の考え方や感じ方を大切にした授業の展開をするよう心掛けた。</p> <p>今後も道徳性が効果的に養えるように、集会活動や学校行事、体験的な活動を生かした授業を工夫するとともに、身近な大人のモデルである教師の言</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>動、安全で教育活動のしやすい場づくりなど、人的・物的環境を整えていきたい。</p> <p>【中学校】 特別の教科「道徳」への移行を踏まえ、「考え、議論する」道徳の時間の授業づくりのポイントや評価内容・方法について共通理解を図った。また、別様を基に全教育活動との関連性を明確にし、「教科書で教えること」を基本に教科書や自作ワークシートを工夫しながら、授業を35時間以上確実に行った。さらに、学級担任、副担任及び管理職全員による道徳の授業実践により、より多角的・多面的に生徒一人一人の豊かな心の育成に取り組めた。</p>	A
(3)特別活動の充実	<p>一人一人の子どもが、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく築いていくことができるよう、必要な資質・能力の育成に努める。</p>	<p>【小学校】 より楽しい学校生活にするために児童一人一人が力を出し合って、自治的・自発的な活動ができるように、特別活動の計画・実践に取り組んできた。コロナ禍において、例えばクラブ活動において、外部講師の活用はできなかったなど制限のある中ではあったが、できる範囲でねらいに即した集会活動、縦割り班活動、学校行事を行い、児童の自己有用感を育んできた。 今後も、集団や自己の生活上の課題を解決するために、</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>合意形成を図ったり、意思決定したりすることを通して、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養っていききたい。</p>	
		<p>【中学校】 2つの願い(一人一人が自分の人生という物語の主人公として、また鰐中の新たな歴史を創る主人公として「自分磨き」に努めることと、仲間と共に磨き合うことを通して人として成長し「輝きを放つ」こと)を込めた第64期生徒会テーマ「燦～新たなる輝きを求めて」の下、①学校行事に加え日常の委員会活動の活性化、②主体的に行動できるリーダーの育成に重点を置きながら、「鰐中宣言づくり～当たり前のことを当たり前にできる鰐中生となるために」「全校話合い活動」「縦割り班によるテーマ別分科会」「リーダー研修会」等様々な取組を実践した。</p> <p>その結果、委員会活動の活性化やリーダーの主体性の向上に加え、全校生徒一人一人の自治意識を高めることができた。特に、「鰐中宣言～アピール2020」を採択した生徒総会では、全校生徒が自らの生活を振り返り、「人として『基本的なもの』は何か。」を考え協議し、「鰐中生にとっての『当たり前』」を明示できた。また、鰐</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>中祭や体験学習等で、生徒同士が認め合い、励まし合う機会を意図的・計画的に設定したことにより、生徒は「仲間の良さ」「仲間と共に活動する楽しさや充足感」を得ることができた。</p>	
<p>(4) 体育、健康教育の充実</p>	<p>一人一人の子どもが、生涯にわたり自ら進んで運動に親しみ、健康・安全で活力のある生活を送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら、心と体を一体として捉え、健やかな体を育む教育の推進に努める。</p>	<p>【小学校】 個に応じた課題を設定し、マラソンカードや縄跳びカードを活用しながら、一人一人にめあてを持たせ、意欲的に体を動かす機会を意図的に設けている。サッカーゴールや鉄棒の補助具を設置し、休み時間には自由に体を動かすことができるようにグラウンドの整備も行っている。また、地域の実態及び各学年に応じた健康教育を行って知識を得させたり、その様子を家庭に周知したりしながら、健康的な望ましい習慣を身に付けさせている。 今後も、継続的に運動をする機会を設けるとともに系統的な健康教育に取り組んでいきたい。</p> <p>【中学校】 保健体育の授業では、全ての生徒が課題に一生懸命取り組めるように、習熟度に応じた練習や、学び合いの場面の意図的な設定などの指導の工夫により、身体を動かすことを楽しみ、前向きに臨むことができた。また、身体の仕組みや規則</p>	<p>A</p> <p>A</p>

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>的な生活リズムの重要性、運動における怪我や熱中症の予防などの基礎的な知識の指導を通して、生徒の健康と安全に対する意識を高めることができた。</p> <p>また、食に関する指導計画を基に、家庭科担当教員と栄養教諭が協力し、実習や授業実践を行い、生徒の食に対する意識を高めることができた。</p> <p>さらに、生徒一人一人が安全に行動したり、他の人や社会の安全のために貢献したりできるように、学校安全指導計画を基に、安全学習及び安全指導を含む安全教育に取り組み、昨年度は生徒の自転車による交通事故及び校内の事故「0」を達成することができた。</p>	
(5) 生徒指導の充実	<p>一人一人の子どもが、豊かな生活を送ることができるよう、家庭や地域社会及び関係機関等との連携を図りながら、心の結びつきを基調とした指導を行うとともに、問題行動・不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>日常の学校生活の中で、児童に対して共感的に指導・支援を行った。教育相談（ふれあい相談）時には、「学校環境適応尺度アセス」「学校生活のアンケート」「毎日の生活をふりかえって」など各種アンケートを活用し、児童の思いに寄り添った生徒指導に取り組んだ。年3回の「情報交換会」では、適切な指導・支援及び組織的な対応ができるよう全職員で共通理解を図った。</p> <p>今後も、児童理解を深めるために、一人一人の児童と教師が</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>向き合うために、生徒指導の三機能（自己決定、自己存在感、共感的人間関係）をいかした授業をしていくこと、いじめや問題行動が大きくならないうちに未然防止を図る指導をすること、小さな芽に対して早期発見・早期対応ができることを目指し、全教職員で全児童を多角的・多面的かつ組織的に指導・支援していきたい。</p>	
		<p>【中学校】</p> <p>豊かな人間性育成のために、①生徒指導の方針「見せない見えない生徒はいても、抱えていない生徒はいない」の徹底、②生徒が集団で孤立しないよう、一人一人の悩みやストレスの原因の把握と支援方法の明確化、③生徒一人一人が、「悩みや困り感」をいつでも相談できる環境づくり、の3点に取り組んだ。</p> <p>その結果、アセスや生徒意識調査結果によると、先生と生徒及び生徒同士の人間関係が良好で安心して楽しく学校生活を過ごせており、多くの生徒は、先生方には厚い信頼を寄せるとともに、心を許せる友達ができていた。</p> <p>また、別室登校の生徒が3年生に2名、2年生に1名、1年生に1名いたが、不登校傾向の生徒に対する柔軟な対応により、完全不登校生はお</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>らず、登校の継続に加え鰐中祭や体験学習等にも参加できた。特に、3年生2名は県立高校進学を果たし、進学後も休まず登校できており、本校職員の親身な対応が立ち直りにつながった。</p> <p>さらに、校内外において、重大ないじめや問題行動が発生せず全生徒が落ち着いた学校生活を過ごすことができた。</p>	
(6) キャリア教育の推進	一人一人の子どもが、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質、能力の育成に努める。	<p>【小学校】</p> <p>キャリア教育の全体計画を作成し、所属する集団やみんなのために働く経験や日常の積み重ねを重視し、働くことの大切さや意義を考えさせ、目的を持って意欲的に学ぶ姿勢が身に付くよう指導してきた。コロナ禍で、5・6年生を中心にしたOH！鰐元気隊キッズの活動は例年通りにはできなかったが、各学年、各教科の中で郷土学習に継続して取り組んできた。</p> <p>今後は、特別活動が学校教育全体を通して行うキャリア教育の要となることが示されたことを踏まえ、「キャリアパスポート」を活用したり、家庭や地域の協力を得たりしながらキャリア形成と自己実現に向けての指導をしていきたい。</p>	B
		<p>【中学校】</p> <p>培いたい資質や能力を明確</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>にしながら、特に学級活動や総合的な学習の時間での進路学習、各学年の体験学習を関連させることで、「働くこと」や「学ぶ意義」に気付けるように工夫した。また、年度当初に、全生徒及び教職員が Dream Board (自分の目指す姿をまとめたもの)に「なりたい自分」を掲げ、そのための具体的な方法を考えることを通して、キャリアプランニング能力や進路実現に向けて努力する態度を育成することに努めた。また、自己の生き方を振り返り、夢や生き方に触れる機会として、全校を対象に「キャリア講話」を実施した。</p> <p>来年度は、本校のキャリア教育を通して培いたい資質や能力と教育活動との関連性を明確にし、教職員一人一人が教育活動ごとの指導の目的をしっかりと理解した上で実践できるようにしたい。</p>	
(7) 特別支援教育の充実	<p>発達障害を含む障害のある子どもが、障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するとともに、そのもてる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>一人一人の児童を生かし、可能性を最大限に伸ばすという視点に立ち、「個別の支援計画」に基づいた支援を心掛けた。児童理解をし、合理的な配慮をし、効果的な支援をするために、家庭との信頼関係の構築も図ってきた。</p> <p>今後も、具体的な支援を実施すること、家庭との連携を</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		密にすること、関係機関との連携を図ること、教職員の研修を充実することなど、児童や家庭を支援する体制を継続させていきたい。	
		<p>【中学校】</p> <p>町の特別支援委員会や小中連携協議会等の機会を通して、小学校と綿密に情報交換を行い、保護者との連携を図りながら、指導や支援に努めた。特別支援学級に在籍する生徒については、個別の指導計画と教育支援計画を作成し、保護者に説明し承認を得た上で実践している。また、通常の学級に在籍する発達障害の傾向がある生徒についても個別の指導計画を作成した結果、教職員の支援がなくとも自ら教育活動に参加できるようになった。</p> <p>配慮や支援が必要な生徒については、職員会議や主任会議に加え、学期ごとの情報交換の場を設け、一人一人の生徒の状況の確認及び対応について協議した。特に、具体的な支援方法については、生徒の困り感を踏まえて、教育支援員によるT Tの実施など迅速かつ柔軟に実施した。</p>	A
(8)環境教育の推進	一人一人の子どもが、環境と人間との関わりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境保全に主体的に取	<p>【小学校】</p> <p>児童にとって日常的に安心安全な中で学校生活を送れるように、人的・物的環境を整えてきた。低学年では学校探検や</p>	B

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
	<p>り組む態度の育成に努める。</p>	<p>町探検、中学年では町の産業や自然、高学年ではわがまち自慢や町の歴史などを学ぶ学習活動を通して、環境に対する意識を授業の中で培ってきた。また、学校・家庭、地域社会が連携しながら、資源回収を行ったり、校内の環境美化計画を基に教室の美化、掲示板の充実を図ってきた。</p> <p>今後も、身近な自然や社会環境に触れさせることができるよう日常の授業の中に体験活動を積極的に取り入れていきたい。</p> <p>【中学校】</p> <p>国連のSDGs(持続可能な開発目標)の紹介や学校生活との関連の周知などを実践しながら本校の現状に合った環境教育に取り組んでいる。また、コロナ渦の影響で、新入生によるつつじ記念植樹や校外の清掃ボランティア等の教育活動を実施できなかったものの、代替え事業として生徒会による校内の清掃ボランティアを行った。</p> <p>その結果、生徒による清掃活動も年々丁寧に行われるとともに、空き教室の整理整頓が徹底され、望ましい学習環境が整えられている。また、教室や廊下には、生徒の振り返りや作品など学習の足跡が掲示されており、生徒が互い</p>	<p></p> <p>B</p>

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		に良さを文字や視覚を通して認め合えるように配慮できている。	
(9) 国際化に対応する教育の推進	一人一人の子どもが、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の推進に努める。	<p>【小学校】 外国語活動、外国語の時間には、動画や写真資料を見ながら諸外国の文化に触れ、興味深く取り組んでいた。町のALTや県の国際交流員を積極的に活用し、コミュニケーションを図ったり、文化の違いに触れさせたりした。体験的に異文化に触れることができ、意欲的に活動することができた。 今後も多様な文化に触れ、物事を多角的・多面的に見ることができ、児童の育成を図っていきたい。そのためにはさらに研修を深めていきたい。</p> <p>【中学校】 校内に常勤のALTがいる恵まれた環境にある。生徒は英語の授業時間はもちろん、昼休み休憩室での交流や総合文化部の活動などで日常的にALTと接している。また、授業だけではなく、英語弁論大会等の指導にも尽力してくれており、生徒の国際理解を深めるとともに、英語によるコミュニケーションへの関心・意欲を高めてくれている。</p>	A
(10) 情報化に対応する教育の推進	一人一人の子どもが、情報活用能力を身に付けることができるよう、情報モラルに関わる	<p>【小学校】 日常の授業の中で、ICT機器を効果的に用いて、授業を行</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
	<p>指導の充実を図り、系統的・体系的な情報教育の推進に努める。</p>	<p>った。新しくなった教科書を利用して、プログラミング教育も行った。児童の実態に合わせたICTリテラシーを身に付けさせるために、情報モラル教育を行ったり、中学校区で連携して「大鰐小・中学校 ゲームやスマホの5つの約束」を家庭に啓発したりした。</p> <p>今後は、GIGAスクールの環境が整った環境を生かし、各教科のどの場面で効果的に活用するか、情報教育の指導計画を見直したり、職員の研修を深めたりしていきたい。</p> <p>【中学校】</p> <p>大型TVや電子黒板、書画カメラ、デジタル教科書が各学年に導入され、各教科・領域の授業で効果的に活用できている。今後、校内Wi-Fi環境の整備やGIGAスクール事業による生徒へのタブレット配布が実現することにより授業における情報化が一層加速することが期待される。また、教職員への校務用PCや中南地域共通の校務支援システムの導入により、教職員の多忙化の軽減の期待もできる。</p> <p>本校の情報モラル教育については、①外部講師を招いた情報モラル教室の実施、②小中(地域)連携した取組「ゲームやスマホの『5つの約束』」の作成、保護者・地域への配布に加</p>	<p></p> <p>B</p>

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		え、校内では、③全校朝会や学年集会での注意喚起、④入学説明会での、新1年生保護者に対する説明を通して、情報モラルの向上に取り組んだ。	
(11) 研修の充実	教員等の資質を高め、教育活動の充実を図るため、計画的・実践的な研修の充実に努める。	<p>【小学校】 校内研修において、全教員、全学級による提案授業を実施し、組織的かつ継続的な研修を推進することで、授業力の向上を図ってきた。コロナ禍において制限があったものの、各研修会等への積極的な参加と、伝達講習や情報の共有化を図った。 今後も、校内における研修を充実させるとともに、県から通達されている「教員の資質向上に関する指標」を基に、教科指導や校務分掌において、各キャリアステージに合わせた外部の研修への参加も奨励していきたい。</p> <p>【中学校】 「主体的・対話的で、深い学び」を実現できるように、本校生徒の実態及び昨年度までの各教科等の取組を踏まえ、4つの授業づくりのポイントを掲げ、特に生徒が学習内容を理解しているか確認する「まとめの工夫」に重点を置きながら、実践研究に取り組んだ。 その成果として、授業参観者からの普段の授業づくりの取組を高く評価するコメント</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>に加え、コロナ渦にもかかわらずN R T等の諸検査結果が一定の水準を保持できたこと、学校評価結果が高評価であったことが大きな成果として挙げられる。</p> <p>これらの成果は、校内研修のビジョン(方向性)とゴール(到達点)を共通理解し、授業づくりに日々取り組めたからである。また、校内研修[教職員の興味・関心を踏まえたテーマ別e-Learning (Online研修)、指導主事等による学校訪問(計画訪問、要請訪問等年3回程度)、一人一公開授業、教職員全員による道徳の授業実践]や、校外研修[県教育センター・中南教育事務所研修、免許更新講習]など多様な研修機会を設定し、教職員の同僚性を高め資質向上に取り組んだ結果である。</p>	

2 社会教育の推進

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成	青少年の体験的活動の充実	<p>ふるさと子ども教室において、大鰐町の特徴を活かす体験活動新規事業として、町の文化財を探訪する「夏休みOWANIふるさと教室」を実施した。また、冬休みには、郷土の俳人増田手古奈氏の俳句カルタを用いた「わにっこカルタ大会」を地域の方に指導していただきながら実施。大鰐町の特徴を活かし、子どもたちが故郷への関心と知識を高め、体験活動を通して学べるような活動となった。</p> <p>次年度はさらに、活動範囲を広げ、大鰐町の良さを体感させていきたい。</p>	A
	地域が支えるキャリア教育の充実	<p>昨年、県の事業である「地域のお宝物語」の実行委員として大鰐町の高校生14名が参加し、地域の魅力を発信できる人材を育成した。その事業の活動により、今後高校生たちが自分たちの地域への愛着をもち、大鰐町社会教育に対してボランティア活動として協力してもらえるように推進していきたい。</p>	B
	子どもの読書活動の充実	<p>導入された図書管理システムにより、小中学校においては児童・生徒の読書状況の確認や読みたい図書を容易に探すことが可能となり、読書活動の充実につながっている。</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>また、公民館図書室においても、全国的に話題性のある本や要望のあった本をその都度購入するとともに、掲示物の配置に気を配るなど利用者の読書意欲の向上に努めた。</p> <p>また、放課後子ども教室においても読み聞かせ活動を定期的に行い読書の楽しさを味あわせている。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染の影響もあり、図書自動消毒システムの導入を図るなど、感染症拡大防止対策に努めた。</p>	
	<p>地域全体で子どもを育む活動の充実</p>	<p>地域の方を講師として小中学校での俳句出前教室の指導を行った。</p> <p>また、通学指導員の配置や大鰐町青少年健全育成連絡協議会による駅前の民間交番「わにっこ安心ステーション」の運営により、地域全体で子どもを見守っている。ただ、いずれも若い後継者の育成が課題となっている。</p> <p>さらに、コロナ禍で、これまで指導していただいた小学校のクラブ活動等をはじめ、地域の方々と子どもたちとのコミュニケーションがとれにくい状況となっている。</p>	B
	<p>家庭教育支援の充実</p>	<p>放課後等に子どもが安心して活動できる場の確保と心豊かで健やかに育まれる環境づくりとして放課後子ども教室</p>	B

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>を実施している。サポーターは県主催の研修会に参加し、より良い家庭教育支援ができる体制づくりにも力を入れている。また、令和2年度は実施できなかったが、家庭教育の大切さを理解してもらえよう、講座の内容等を工夫し家庭教育講座を実施していきたい。</p>	
(2)活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成	地域活動実践者の育成	<p>活力ある地域コミュニティ形成につなげられるよう大鰐町生涯学習推進会議を立ち上げたものの思うような成果をあげることができなかった。</p> <p>来年度、コミュニティ・スクール導入に当たり、改めて地域学校協働活動本部を立ち上げて地域活動実践者の育成に努めていきたい。</p>	C
	地域活動の指導者、コーディネーターの養成	<p>地域活動を行っている団体の代表者や個人からの相談を受け、地域イベント等に対する協力を行い、地域活動指導者の育成につなげることができた。具体的に地域コーディネーターの養成はできていないが、今後積極的な活動を行う団体や個人を支援、コーディネーター養成講座等の周知を行っていきたい。</p>	B
	地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援	<p>令和元年度に引き続き、可能な限り地域住民の講師活用を行った。新たな人材育成を図っていることから人材バンクの</p>	B

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		整備を含めた、ネットワークの構築と拡大に努めたい。	
(3)一人一人の主 体的な学習と社会 参加の推進	関係機関との連携による多 様な学習活動の支援	<p>成人大学・ふるさと子ども 教室・放課後子ども教室・俳 句教室等において役場や町内 の機関からの協力を得て講師 派遣等の支援を受けた。</p> <p>学習支援の体制づくりとと もに学習内容について町民の 要望等に応じながら多様な学 習活動ができるように機会を 設けていきたい。</p>	A
	学習成果を生かした社会参 加活動の支援	<p>成人大学では、グラウン ド・ゴルフやボッチャを体験 してもらい、ニュースポーツ フェスティバルへの参加につ ながることができた。</p> <p>学習成果を発揮できる場を 町内に限らず探し、周知等が できるよう近隣市町村の情報 まで視野を広げていきたい。</p>	A
(4)社会教育推進 のための基盤整備	社会教育推進体制の充実	<p>町社会教育行政の方針と重 点に基づき事業を展開すると ともに、社会教育委員や参加 者の意見をいただき事業内容 の見直しを図ってきた。ま た、点検評価委員会からの評 価や指摘事項に基づき、即対 応・改善を図っていく体制づ くりもしていきたい。</p>	B
	社会教育施設の機能の充実 と活用の促進	<p>図書管理システムの導入か ら5年が経過し図書室利用者 の増加はもちろん、県立図書 館との相互貸借により多くの 図書に触れることができる体 制が作られている。</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>公民館の利用についても、役場各課の事業開催、文化協会員のコーラスや健康サークルなど多くの利用がされている。</p>	
	<p>社会教育関係職員の養成と資質の向上</p>	<p>社会教育関係事業に関する各種会議や研修会に積極的に職員派遣を行った。</p> <p>町職員の社会教育主事資格所持者の配置換え等により、現役の社会教育主事が減少している。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、来年度からの社会教育主事の養成を計画的に進められるよう努めたい。</p>	B
	<p>社会教育関係団体等の活動の支援</p>	<p>各社会教育団体への補助金の支給や団体活動への職員の参加など団体活動の支援を行い、活動の支援に努めた。</p> <p>今後も継続的に社会教育団体を支援していきたい。</p>	A

3 文化財の保護活用

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)文化財の保護・保存	かけがえのない文化財を次代に伝えるため、適切に管理し、保護・保存に努める。	<p>居士区会より申請のあった熊野神社内にある「いちょう（一對）」を町の文化財として指定できた。</p> <p>天然記念物である「黒サンショウウオ」の存在を確認することができた。今後も定期的な調査が必要である。</p> <p>また、町内にある板碑の視察を行い保存状況の確認をした。標柱が傷んでいるものがあり修繕し保護・保全努める必要がある。</p>	A
(2)文化財の公開・活用	町民が文化財に興味・関心を持ち、親しめるよう、公開・活用と情報発信に努める。	<p>これまで「三ツ目内獅子（熊）踊」「大鱈登山囃子」とともに様々なイベントや芸能発表会に参加出演し、技術の継承を図っていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で公開の場が閉ざされてしまった。補助金等の活動支援をしていきたい。</p> <p>また、町の文化財の状況を各種たより等で紹介し、文化財に関する意識を高めていきたい。</p>	B
(3)伝統芸能・技術の継承	地域で生まれ、保存・伝承されてきた伝統芸能や技術の継承に努める。	<p>伝統芸能技術の継承を担うには、児童・生徒が興味関心を持つことが重要であり、発表の場を提供する必要がある。小中学校との連携が求められる。コロナ禍で連携が難しい中、小学校教員が伝統芸能をクラブ活動の中で指導してくれたことは特筆される。</p>	B

4 生涯スポーツの振興

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)学校体育・スポーツの充実	<p>児童・生徒が、自ら進んで運動に親しむ資質や能力を身に付け、健康保持増進と体力の向上を図ることができるよう、学校体育・スポーツの充実に努める。</p>	<p>地域の特色であるアルペン・クロスカントリースキーを親しみやすく・楽しめるような環境づくりをして町内児童・生徒の体育・健康教育の振興を図るために、スキー場リフト券の助成を実施した。</p> <p>令和2年度はコロナ渦であったものの、465人がリフト助成を利用し、令和元年度に比べ157人の増となった。</p> <p>児童・生徒の関心・需要の高い事業であるため、今後も継続して事業を実施していくためにも、スキー場との連携を強化する必要がある。</p>	A
(2)健康教育の充実	<p>児童・生徒が心身ともに健康で安全な生活について理解し実践できるよう、学校、家庭、地域社会の連携を図り、学校保健、学校における食育及び学校安全を総合的に推進し、健康教育に努める。</p>	<p>町給食センター栄養士及び学校担当教諭が連携し、地元の食材や特産品を使用しながら、地産地消の食育活動を行うことができた。</p> <p>食材やメニューの工夫を行い、地元の食材をより多く活用し、児童・生徒の地元へ興味を高めつつ、食物アレルギー対応など、安全な給食の確保をより一層図って行きたい。</p>	B
(3)スポーツの振興	<p>町民が生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現できるよう、スポーツに親しむ環境づくりと競技力を向上させる環境づくりの充実に努め、スポーツの推進に努める。</p>	<p>大鰐町を代表するスキー競技は、平成26年度から平成28年度にかけて全国大会を開催し、令和7年度の冬には第80回国民スポーツ大会冬季大会の開催地になる予定であるため、各競技団体からの要望な</p>	B

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>などを参考に国スポ開催に向けて準備を進める。</p> <p>また、虹貝多目的広場については、主に軟式・硬式野球の練習をしたい団体が利用し、最近ではラグビーチームが練習拠点として活動を始め、使用希望をする団体が増えている。また、旧大鰐高校の時からある備品が老朽化してきているため、利用者に危険が及ぶ前に撤去の準備を進め、安心・安全に利用できるように環境整備に努める。</p>	

VIII 令和2年度 主な事業と経費及び成果等

事業名	区分	決算額 (千円)	事業内容	成果等
情報機器整備事業		35,035	児童・生徒一人一台の学習用PCを整備 大鰐小 22,484,000円 大鰐中 12,551,000円 計 35,035,000円	GIGAスクール構想に対応するため、児童・生徒に一人一台のPCを整備できた。今後は、授業等における活用を進める。
特別支援教育推進事業		11,425	小・中学校の普通学級に在籍する学習障害や多動傾向等により特別な配慮を必要とする児童・生徒の学校生活の支援を行うため、特別支援教育支援員を配置	令和2年度は、小学校に3人、中学校に2人の支援員を配置し、支援が必要な児童・生徒に手厚い対応を行うことができた。
AET招致事業		4,702	【令和2年度実績】 人件費 4,289,698円 旅費 0円 需用費 70,950円 役務費 93,390円 住宅借上 78,845円 施設用備品費 53,350円 負担金 116,120円 計 4,702,353円	中学校に外国語指導助手を配置することによって、生きた英語を体験することができる。また、スピーチコンテストや英検の面接の練習を手伝いListening/Speaking能力の向上に寄与した。 また、小学校の外国語活動の授業にも派遣し、中学校入学後の英語教科にギャップなく取り組んでいる。
スクールバス運行事業		14,737	長小方面 7,869,950円 二小方面 3,466,650円 駒木方面 3,400,100円 計 14,736,700円	遠方から通学する児童のためスクールバスを運行し、児童の登下校の安全を確保することができた。
小学校改修事業		14,971	遊具更新工事(ブランコ、登り棒) 3,190,000円	学校施設・設備等の改修工事等を実施すること

事業名	区分	決算額 (千円)	事業内容	成果等
			水回り箇所感染症対策改修工事 3,711,400 円 暖房設備改修工事 1,001,000 円 冷房設備設置工事 7,068,600 円 計 14,971,000 円	により、感染症対策などを含めた適切な教育環境の維持管理が図られた。
中学校改修事業		10,137	便所改修工事設計業務委託 2,464,000 円 駐輪場照明設備設置工事 319,000 円 冷房設備設置工事 7,353,500 円 計 10,136,500 円	
備品購入費		2,376	大鰐小 指導用デジタル教科書ほか 1,726,230 円 大鰐中 楽器購入ほか 648,800 円 計 2,375,030 円	小学校及び中学校において必要な教材備品等を整備することができた。
生きる力育成事業補助金		1,150	「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」などの「生きる力」を育むために、決められた予算内において学校長の裁量で自由に予算を執行できる。 大鰐小 690,000 円 大鰐中 460,000 円 計 1,150,000 円	小学校では、鰐っこ暗唱詩集を作成し、文芸作品を暗唱させることで、文学的興味や関心を高めるとともに、豊かな心を育むことができた。また、スキー教室の実施により、ふるさとへの愛着を育むことができた。 中学校では、問題集の購入や実力テストを実施し分析することで、学力の向上を図ることができた。また、総合的な学習の時間において、助産師による講習会を行うことで

区分 事業名	決算額 (千円)	事業内容	成果等								
			生徒自身が命の大切さを考える機会を与えることができた。								
部活動支援事業	1,108	<p>大鰐小・中学校における部活動等の充実及び発展を図るため、児童・生徒が選手として対外競技会等に参加するための費用を補助するほか、必要に応じて備品購入に係る費用を補助している。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>大鰐小</td> <td>560,000 円</td> </tr> <tr> <td>大鰐中</td> <td>548,000 円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,108,000 円</td> </tr> </table>	大鰐小	560,000 円	大鰐中	548,000 円	計	1,108,000 円	<p>コロナ禍により様々な部活動の大会が平常どおりの開催ができない状況であった。</p> <p>大鰐小学校スキー部の児童が、県代表として全日本小学生選抜クロスカントリー大会に出場を果たし、練習の成果を発揮することができた。</p> <p>大鰐中学校においても、昨年度に引き続きスキー部の生徒が全国大会に出場し、上位の成績を残すことができた。</p> <p>全国大会では、トップレベルの競技を体感することにより、向上心の醸成と技術の向上が図れ、他県の児童・生徒との交流など、貴重な体験をさせることができた。</p>		
大鰐小	560,000 円										
大鰐中	548,000 円										
計	1,108,000 円										
小学校扶助費	4,123	<p>就学援助費・特別支援就学奨励費</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>学用品費等</td> <td>1,045,804 円</td> </tr> <tr> <td>給食費</td> <td>529,950 円</td> </tr> <tr> <td>遠距離通学費</td> <td>2,547,540 円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4,123,294 円</td> </tr> </table>	学用品費等	1,045,804 円	給食費	529,950 円	遠距離通学費	2,547,540 円	計	4,123,294 円	<p>【就学援助費・特別支援就学奨励費】</p> <p>経済的理由により、就学困難な児童・生徒の保護者及び特別支援学級で学ぶ児童・生徒の保護者等に対して、教育を受ける上で必要な学用品費や学校給食費の扶助をしたことにより、義務教育の</p>
学用品費等	1,045,804 円										
給食費	529,950 円										
遠距離通学費	2,547,540 円										
計	4,123,294 円										

区分 事業名	決算額 (千円)	事業内容	成果等
中学校扶助費	2,782	就学援助費・特別支援就学奨励費 学用品費等 1,378,777 円 給食費 528,000 円 遠距離通学費 874,780 円 計 2,781,557 円	円滑な実施がなされた。 ◇扶助対象者 小学生 35名 中学生 30名 【遠距離通学費】 遠距離地域から通学する児童・生徒の保護者に対して、通学費の全額又は一部を扶助したことにより、保護者の経済的負担の軽減と義務教育の円滑な実施がなされた。 ◇扶助対象者 小学生 58名 中学生 18名
生涯学習推進事業	297	生涯学習だより・成人大学・ふるさと子ども教室・成人式等各種事業の実施	社会の変化やライフステージに即した事業及び子どもたちが地域文化に触れる機会を設けた事業を展開し、町民一人一人が主体的に学ぶ学習機会の提供を行った。
俳句の街づくり推進事業	216	大鰐温泉俳句の街づくり実行委員会補助金	第27回増田手古奈記念大鰐温泉俳句大会（吟行の部）は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。 しかしながら募集句は、県内外からたくさんの方の投句をいただき俳句への関心の高いことが明らかとなった。

区分 事業名	決算額 (千円)	事業内容	成果等
放課後子ども教室推進事業	1,461	放課後子ども対策事業教育活動サポーター、コーディネーター謝礼金等	中央公民館で実施し、平成25年度より中央公民館教室では休館日である月曜日も開催。 放課後における子どもの安全・安心な居場所づくりと有益な余暇活動のための放課後子ども教室を開催することができた。
生涯スポーツ推進事業	342	生涯スポーツ推進及び普及のため、スポーツ推進委員を各種大会へ派遣し指導を行った。	大鰐町スポーツ推進委員が主体となって毎年開催している『ニュースポーツフェスティバル』は、54名が参加した。 当日は天気に恵まれ、屋外での開催となった。なお、コロナ渦での開催となり、手指消毒・検温・密回避など様々な対策を委員らと協議して実施し、参加者に協力をしてもらいながら事業を完了し、幅広い世代の町民にスポーツを体験してもらうことができた。
図書購入事業	494	公民館図書室用図書購入	流行の本や推薦図書をその都度購入し、読書意欲の向上に努めることや、児童誌、生活関連雑誌を購入し町民の図書室利用に供することができた。
公民館改修事業	6,307	中央公民館工事等 雨漏り修繕工事 2,025,100円	中央公民館雨漏り修繕工事、水回り箇所感染症

事業名	区分	決算額 (千円)	事業内容	成果等
			水回り箇所感染症対策改修工事 4,281,421 円 合計 6,306,521 円	対策改修工事を行い、施設を利用する方の安心安全を確保することができた。
各体育団体補助金		1272	町体育協会補助金 979,894 円 県民駅伝競走大会補助金 0 円 (中止のため) 各種スキー大会 292,000 円	令和2年度は、毎年恒例の全県行事である県民駅伝競走大会と県民体育大会の中止のほか、大鰐町スポーツ協会60周年記念式典も中止となり、様々な事業がコロナウイルス感染症の感染拡大防止のため実施することができなかった。 冬季のスキー大会については、開催について協議し、感染症対策を万全にして臨み、無事成功裏に終了した。 今後もコロナウイルスの感染状況を注視して事業の実施について考えていく必要がある。
小中学校スキー振興事業		608	利用人数及び助成金額 小学生 282 人 324,300 円 中学生 183 人 283,650 円 計 465 人 607,950 円	当事業は昨年度に比べ、利用人数が157人増となった。その要因としては、町が実施した冬季観光キャンペーン昨年冬の大鰐冬季観光キャンペーンの効果で、大人から子どもまで多くの方がスキー場を利用していたこともあり、小中学生も多数利用したことが利用人数の増加につながった

事業名	区分	決算額 (千円)	事業内容	成果等
				<p>と思われる。</p> <p>多くの児童・生徒が地域の特色であるスキーに親しむ機会が増え、楽しみながら健やかな体を育むことができた。</p>
虹貝多目的広場 管理費		3,545	<p>虹貝多目的広場環境整備業務委託料</p> <p style="text-align: right;">1,318,625 円</p> <p>工事費</p> <p style="text-align: right;">1,933,579 円</p> <p>消耗品費、光熱水費ほか</p> <p style="text-align: right;">297,645 円</p>	<p>虹貝多目的広場を平成30年から供用開始した。使用団体及び日数は昨年、コロナウイルス感染症の影響で活動が制限されていた団体が多く、使用日数は減少したが、昨年10月頃からはラグビーチームが使用し始めており、徐々にではあるが利用する団体数が増えている。</p>

IX 評価委員による点検・評価

【教育委員会会議について】

- ・「新型コロナウイルス」の感染拡大に伴い、近隣の自治体でクラスターが発生し、関連する多くの会議・研修会などが中止となる中で、毎月1回の定例会議と3回の臨時会が開催され、概ね適切に議論がなされるとともに適宜報告がなされ、教育委員の間で共通の認識形成が図られている。「教育行政の独立性」の視点からも、児童・生徒や住民の「学び」を大切にしたい議論を行い、積極的に情報発信していただきたい。
- ・定例会及び臨時会が計画的に開催されている。その中で教育長の業務内容が報告され、教育委員間で認識の共有化がなされている。

【学校教育の推進について】

- ・「授業の充実」の項目では、児童・生徒の学習習慣を身に付け「確かな学力」を身に付ける課題などで大きな成果を上げ、また、「道徳教育」、「特別活動」、「体育・健康教育」などでも大きな成果を上げている。「不登校」や「問題行動」といった問題にも適切に対応し、大きな成果を上げている。今後は、キャリア教育については「ライフデザイン」などの視点も入れて、また、環境教育についてはSDGsなどの理解を含めて、継続的にプログラム開発を追求していただきたい。
- ・「授業の充実」については、小学校では「効果的な言語活動」を取り入れた指導、中学校では「授業づくりのポイント」を明確にした指導を基に、教員間で共通理解を図りながら取り組んでいる様子が伺われる。また、学力検査の結果を受けて、小学校では国語科における「書くこと」の指導事項や自分の考えを表現する内容を、中学校では全体的な学力偏差値の低下を課題としている。今後、授業改善に向けた研修を充実させながら取り組んでほしい。

「生徒指導の充実」については、小中学校とも「学校環境適応尺度アセス」を活用するなど小学校と中学校が連携して取り組んでいる。小中学校とも重大ないじめや問題行動が発生しておらず、教員と児童・生徒の良好な信頼関係を基に落ち着いた学校生活を送っている様子が伺われる。特に中学校では別室登校の生徒が各学年数人いるものの、完全不登校生はおらず高校受験についても成果を上げている。今後も生徒指導の三原則を生かした授業を基に、継続して取り組んでいただきたい。

「キャリア教育の推進」については、コロナ禍の中で小中学校ともに苦労されたことと思うが、小学校では各教科の中で郷土学習に継続して取り組むなどの積極的な対応が見られる。コロナウイルスの収束までまだ見通しが立たない状況が続いているが、小中

学校ともオンライン授業を取り入れるなど、工夫した授業づくりに取り組んでいただきたい。

【社会教育の振興推進について】

- ・「コロナ禍」の中、地域における学習活動や他者との交流も大きく制約されてきた。そうした状況にあって、「学校・家庭・地域の協働」の取り組みや「活力ある地域コミュニティの形成」などの課題で大きな成果を上げている。今後、地域活動の活動者、コーディネーターの育成や「地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援」等の項目では、長期的展望を持ち教育行政の柱の一つとして位置付け、住民一人一人の学習要求・社会参加の要求を基礎として取り組んでほしい。

- ・「青少年の体験的活動の充実」を図るために、町の文化財を探訪する「夏休みOWANIふるさと教室」を、冬休みには郷土の俳人増田手古奈氏の俳句カルタを用いた「わにっこカルタ大会」を地域の方に指導していただきながら実施した。両事業ともコロナ対策を十分にした上での実施であったと推測されるが、大鰐町の良さを体感できる良い取り組みであり、今後も安全対策の工夫をしながら展開してほしい。

「地域全体で子どもを育む活動の充実」については、小中学校での「俳句出前教室」への講師派遣、通学指導員の配置、青少年健全育成連絡協議会による駅前民間交番「わにっこ安心ステーション」の運営をしている。これらの事業は、地域の子どもたちが町を愛し、子どもたちの命と安全を守るために大切なことであり、今後も継続して実施できるよう働きかけていただきたい。

なお、「コミュニティ・スクール」導入については、首都圏と地域の実情が異なる点に配慮した進め方をしていただきたいと考えている。

【文化財の保護活用について】

- ・「文化財の保護・保存」では、熊野神社内のイチョウを町文化財に指定し、天然記念物の黒サンショウウオを確認できたことは大きな成果である。「文化財の公開・活用」では、「コロナ禍」のため活動が制約されたが、今後に期待したい。今後、地域内の自然・歴史・文化などに関わる資料・文化財等に関わる発掘・保存・継承についても積極的に取り組み、住民の地域認識・学習の推進を図り、情報発信も行っていただきたい。

- ・居土地区の熊野神社内にある「いちょう（一對）」が町文化財として指定されたが、多くの町民に伝えられるよう今後の活用方法について検討していただきたい。また、「三ツ目内獅子（熊）踊」「大鰐登山囃子」の支援については今後も継続していただきたい。

【生涯スポーツの振興について】

- ・「学校体育・スポーツの充実」という項目では、「スキーの町大鱈」という特色をいかして、児童・生徒の体育・健康教育の面で大きな成果を上げている。健康保持には、食生活や運動とともに多様な社会参加が重要である。今後は、健康教育・食育・スポーツの振興に努めていただきたい。令和7年度に国スポの会場となる予定だが、多くの町民の自主的で創意工夫のあふれるサポートが期待される。
- ・町内児童・生徒に対してスキー場リフト券の助成をしているが、今年度はコロナ禍にもかかわらず実績を伸ばしたことは素晴らしい。今後も小中学校とも連携しながら取り組んでほしい。また、「地産地消の食育活動」については、児童・生徒の健康教育や地元農産物の生産向上の観点からも重要であり、今後も小中学校や各団体と連携しながら取り組んでいただきたい。